

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

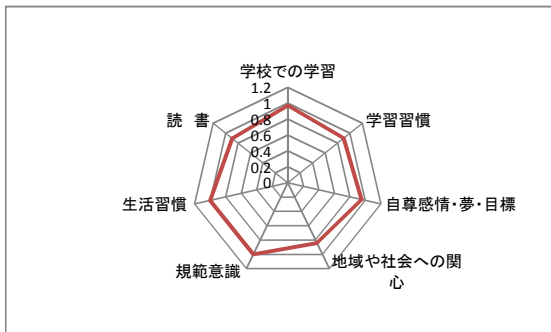
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	漢字で、正しい読み書きの定着ができていない。繰り返しの漢字の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返す必要がある。また、書くことの指導においては、相手や目的を明確にしながら、必要な事柄を選んで書かせるとともに、手紙など実用的な文章の書き方も年間計画に位置づけて指導していく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・俳句の中の言葉から情景を捉える問題は、正答率が高かった。 ・漢字を書く問題で、同音異義語のない漢字の問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・手紙の構成を理解し、後付けを書く問題は、正答率が低かった。 ・漢字を書く問題で、同音異義語のある漢字の問題では正答率も低く、無回答率が高かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	9問中4問で正答率が全国平均を上回っていた。また、多くの問題で無回答率が全国を下回っており、問題文を読み、何かしら書こうとする姿が見られる。国語Aと同様、書くことの指導において、相手や目的を明確にしながら、必要な事柄を選んで書かせる取組が必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題や、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題は、正答率が高く、全国平均よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く問題や、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題は、正答率が低く、また全国平均よりも下回っていた。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」の領域では、問題の半分の正答率が全国平均を上回っているが、他の領域では、ほとんど全国平均を下回っており、無回答率も高い。基礎的な計算だけでなく「分ける」「比べる」「関係づける」などの算数的活動を意識させた学習への取組が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・整数の乗法の計算や、加法と乗法の混合した整数と小数の計算は、正答率が全国平均よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	・正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成されていることが理解している問題や、資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題は正答率が低く、全国平均よりも10ポイント以上低く、無回答率も高かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	問題の意味を考え、求める解のために、ほかの必要な情報を判断し特定することに課題がある。資料の読み取りや、資料から問題を解決するために必要なことを判断する力をつけていく指導が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題は、正答率が全国平均を12ポイント上回っていた。	
	努力が必要な問題	・示された条件を基に、適切な式を立てる問題や、直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用する問題は、正答率が全国平均より10ポイント以上低く、無回答率も高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣としては、宿題はするが自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国平均よりもかなり低い。学習規律の徹底や家庭学習の取り組みませ方について、職員の共通理解と学年に応じた系統的な取り組みの実施が必要である。 ・学校での学習で、課題に進んで取り組むことや、話し合い活動を行って自分の考えを深めたり広めたりしている割合は全国平均よりも10ポイント近く低かった。興味関心の持たせ方の工夫や、学習形態の工夫などの授業改善が必要である。 ・振り返る活動を行っていたかは、全国平均よりも高い。前年度までの主題研等の取組の成果ではないかと思われる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上のための特設時間の実施

・月曜日、金曜日の朝の活動を「学習タイム」とし、それぞれ、算数、国語の基礎学習に取り組む。木曜日は全学年で「考え、表現するためのワークに」取り組む。練習問題やワークでは、やりっ放しにならないように15分間の内、10分で取り組み、残りの5分で前回の解説と見直しなど行うようにする。

◎子どもの理解を深めるための授業づくり

・課題解決の進め方や話合いの仕方など「学び方」の指導を継続的に行うとともに、書画カメラや電子黒板等のデジタル機器およびデジタル教科書等を活用することで、学習中に子どもたちの視線や意識を集中させたり、学習内容の理解のしやすさにつなげたりする。

◎「考え、表現する」ことを習慣化

・学習の中で、自己の考えを決められた時間にもつことができるようにし、そのための手立てを工夫する。

・話合い活動では、考えを伝えたり、聞いたりするだけでなく、意見の交流ができるようにしていく。

・学習の最後に、振り返りとして、新たな気づきや自分の考えの変容などを書くようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎家庭学習のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)

・家庭学習時間のめやすの時間を(学年×10+10)分程度とする。

・校内で作成した「家庭学習の手引き」について通信や懇談会等で知らせる。

・懇談会やPTA理事会などの機会に「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の意義や取り組み方などについて伝える。

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

・児童質問紙の内容で重点的に取り組むものを抜粋して、全児童にアンケートを実施することで、課題を明確にし、職員の共通理解のもとで課題解決に取り組む。

・学校だよりや学校HP、家庭教育学級等で結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。